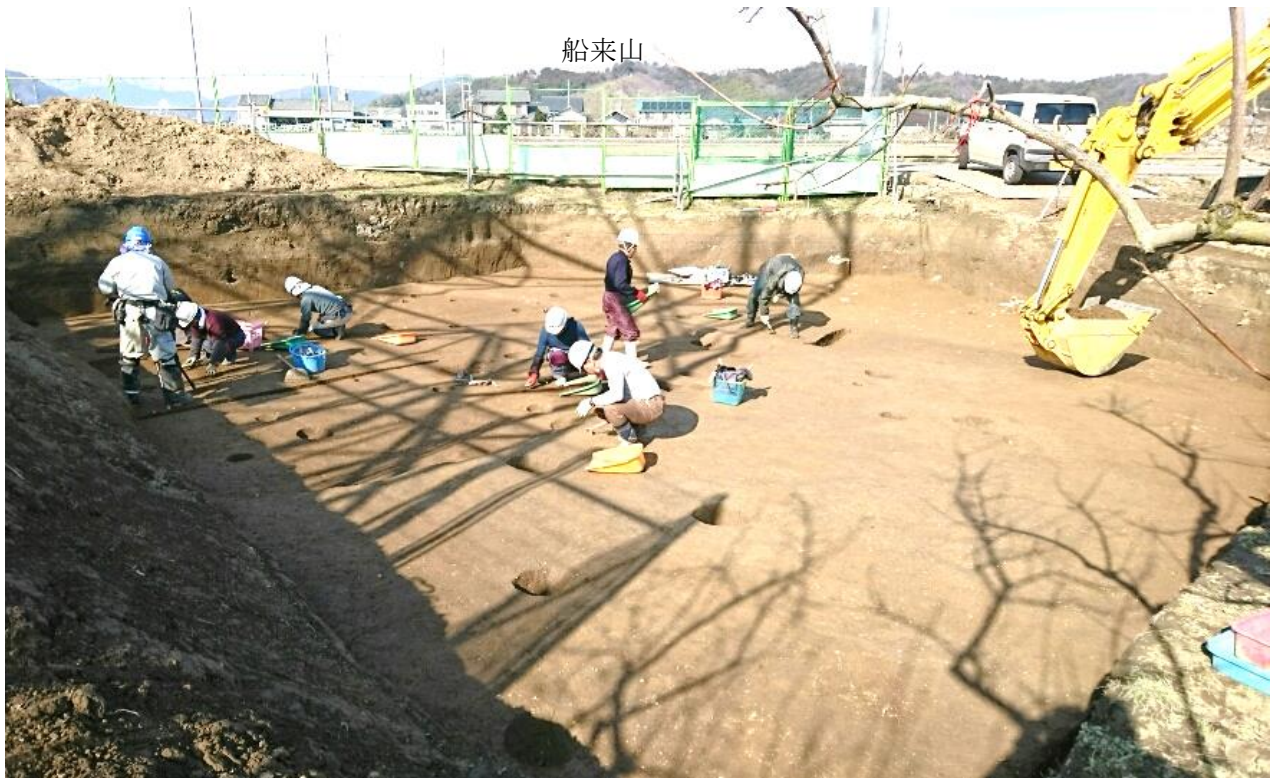


上保本郷遺跡発掘調査 公開発掘調査資料

平成 30 年 2 月 10 日（土） 本巢市教育委員会



1 調査概要

所在地 : 本巢市上保

調査面積 : 190 m²

事業主 : 関西電力株式会社

調査原因 : 東海環状自動車道建設に伴う鉄塔移転

調査期間 : 1 月 15 日～2 月末予定

2 上保本郷遺跡と周辺の歴史について

上保本郷遺跡は船来山南麓の扇状地上に広がる遺跡です。今回の調査地は船来山古墳群から約 700m 南にあたり、船来山古墳群がよく見渡せる位置にあります。上保本郷遺跡では岐阜県文化財保護センターが平成 27 年度から 29 年度まで東海環状自動車道建設に伴う本発掘調査（調査面積 17,167. 8 m²）を行っておられますが、古墳時代の土坑や古墳（上保岩坪 1 号墳、2 号墳）、平安時代の竪穴建物、平安時代末期から鎌倉時代の鍛冶炉跡、鎌倉時代から室町時代の屋敷地や集落跡等の古墳時代から中世にかけての遺構約 5,200 基、遺物約 19 万点が見つかっています。

船来山古墳群は東西約 2 km 南北約 500m の細長い小さな独立丘陵に築かれた古墳群です。なんと現在 290 基の古墳が発見されており東海地方最大級の古墳群です。弥生時代の方形周溝墓から古墳時代終末期まで約 400 年にわたり連綿と築かれており、まさに「古墳時代の教科書」のような古墳群です。前期古墳では前方後円墳だけでなく、最近では船来山 62 号墳、64 号墳、76 号墳のような前方後方墳も見られており同じ丘陵の中でも西側と東側とで様相が異なるようです。また 4 世紀末には船来山 24 号墳が築かれます。5 枚の鏡をはじめ、1m を超す大刀、多数の鉄剣、銅鏃、勾玉、管玉、ガラス玉など大変豪華な副葬品が出土しました（1967 年発見）。出土品はその後国へ買い取られ、現在は東京国立博物館に収蔵されています。古墳時代後期（6 世紀）になると石室内部が真っ赤にベンガラで塗布された赤彩古墳が 3 基も築かれます。岐阜県で 5 基しか見つからないうちのなんと 3 基も船来山古墳群で発見



上保本郷遺跡より船来山 O 支群（赤彩古墳出土地）をのぞむ

されています。出土品は本巢市富有柿の里内古墳と柿の館へ展示されています。

上保本郷遺跡から南へ約 200m の場所には席田郡家推定地がありさらに約 200m の場所には席田廃寺跡（定額尼寺 本巢市石原の八幡神社周辺）、席田郡府遺跡があります。席田廃寺は、「日本三大実録」という古い文献の中に登場する有名なお寺で、仁和三年（887 年 平安時代）に、美濃国分寺・美濃国分尼寺が火災で焼けた時に、その代わりとして一時期、美濃国分寺の機能を移した寺と書かれています。平安時代当時に相当な立派な建物が本巢市内にあったということです。当時の席田郡が大変栄えていたことを示すものと考えられます。この記録を証明するかのように、古くから古代瓦や土器が出土する地域として、本巢市石原、郡府周辺は有名でした。そして平成 19 年度から始まった本巢市詳細遺跡分布調査の中でも、たくさんの土器や古代瓦が落ちていました。土器の多くは、奈良時代や平安時代に使われていた須恵器や灰釉陶器、土師器でした。席田郡は「続日本記」によると、霊亀元年（715 年 奈良時代）に本巢郡から分かれて建てられた郡であると記録されています。古代の席田郡は、大変栄えていたようです。

3 調査成果の概要

竪穴式住居（家）が 2 軒（3 軒？）、掘立柱建物群（柱穴多数）が出土しました。今後も竪穴住居跡、溝跡が出土する可能性があります。



中世の掘立柱建物群跡



古代の竪穴住居跡を調査する様子

4 おわりに

今回の調査では、中世の掘立柱建物群や奈良・平安時代のものがたくさん出土しています。古い文献にも登場する古代の席田郡の様子を探るうえで、大変貴重な資料を得ることができました。古墳時代に290基もの古墳が築かれた船来山古墳群や立派なお寺である席田廃寺（定額尼寺）があったということは、席田郡は大変栄えた地であったことが伺えます。古墳時代から中世にかけて、一流の文化が席田の地で栄えたということでしょう。皆様の住んでいる土地に、素晴らしい歴史があることを、今回の調査結果を慎重に検討・整理しながらご紹介できればと思います。最後に、今回の調査に協力してくださった方々に感謝申し上げます。

問い合わせ：本巢市教育委員会社会教育課 電話 058-323-7764

※調査・整理作業途中につき、内容については変更・修正場合があります。